神崎池（かんざきいけ）

位　置　図

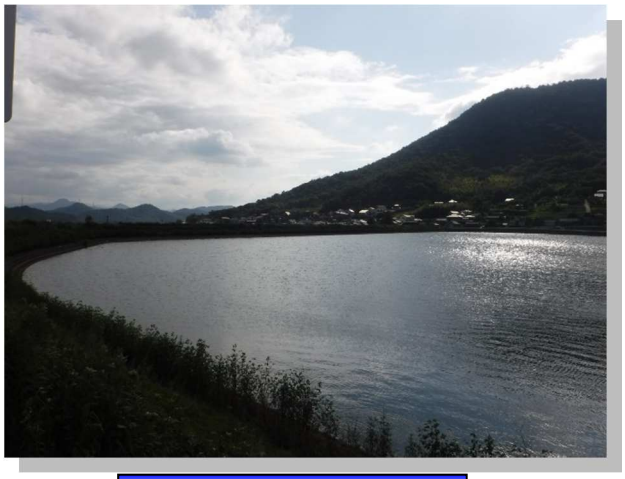
諸　元

貯 水 量	225	千m3
満水面積	6.6	ha
受益面積	47	ha
堤　　高	10.7	m
堤　　長	438	m

神崎池は、室町時代後期に築造されました。この池は北に国分台を背負った形で、南に面した山裾へ築かれており、国分台に降った雨を貯え、日照りの年でも比較的水に恵まれていたそうです。文政元年（1818 年）にまとめられた「池泉合符録」によると、宝暦 5 年（1755 年）当時では、約 56ha もの受益面積があったことから、神崎池は国分台の麓で盛んに行われてきた稲作を支え続ける、重要な農業用施設だと言えるでしょう。

また、神崎池は今までに何度も木樋の腐食による改修工事を行っていますが、昭和 47 年（1973 年）に実施された昭和の大改修では、堤防補強、樋管一ヶ所及び洪水吐一ヶ所を 1 億 3978 万円で改修しています。このことからも、多額な事業費の投資に値する重要なため池であることがわかります。

神崎池の西側の山裾には、四国八十八カ所の八十番札所国分寺から八十一番札所白峰寺に続く遍路道があります。この遍路道は「へんろ転がし」という異名をもっており、急峻な坂道が続いています。現在では、この遍路道を歩いて遍路される方は少なくなりましたが、遍路が盛んであった当時は、神崎池のほとりで休憩しながら、次に続く「へんろ転がし」への鋭気を養ったことでしょう。



国分台と神崎池